

造山古墳について

造山古墳は、全長 350 m の前方後円墳です。昨年度は前方部の墳丘裾を中心に発掘し、葺石を確認しました。今年度発掘している後円部は今回が初めての調査となります。築造されたのは 5 世紀初め頃と考えられます。

今回の調査では、4 か所のトレンチ（調査区）を設定しました。調査地点周辺は墳丘が大きく削り取られています。調査の結果、遺構の確認は困難と思われましたが、地下に葺石の一部が残されていることがわかりました。

調査の成果

調査の結果、トレンチ 2・トレンチ 3・トレンチ 4 において列状に並ぶ石を確認しました。これらはかつて墳丘を覆っていた葺石の残存部と推測されます。造山古墳の形や規模を今後追求していくうえで貴重な発見といえます。今回確認した葺石のうちトレンチ 2・3 の石列は列状に並んでおり、墳丘の端部にあたるものと思われます。

トレンチ 1 では、後世の改変によって葺石はすでに失われていました。埴輪もほとんど出土していません。

トレンチ 2 では、列状に並ぶ石列を確認しました。基底部の葺石にしては石が小ぶりなため評価が難しいのですが、トレンチ 3 の内容とあわせてみると、墳端の葺石に当たる可能性があります。

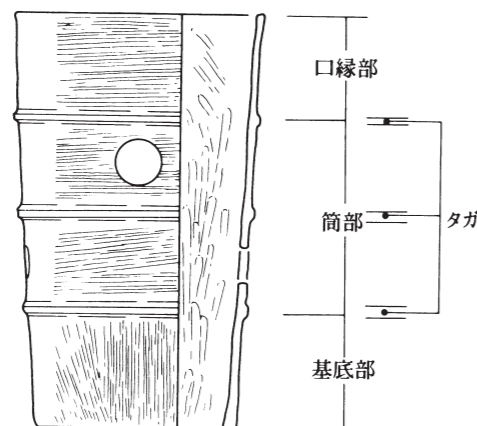
トレンチ 3 では、基底部に当たる部分のみが残っており、それより上の部分はすでに失われていました。このほか、盛土の堆積状況を確認できました。

トレンチ 4 では、石が段状に積み上がったようにみえる状況で確認されましたが、これらの石の背面から埴輪片が出土していることから、流出土に崩壊した葺石が堆積したものとみられます。用水路側から大きく掘削されており、墳端に当たる箇所はすでに破壊されているようです。このほか、盛土の堆積状況を確認しました。

トレンチ 3・4 では埴輪が出土しました。特にトレンチ 4 では埴輪がまとまって出土しています。出土した埴輪の多くは円筒埴輪と考えられます。

おわりに

今回の発掘調査では、昨年度に続いて墳丘裾に当たる場所から葺石を確認できました。今後さらにその範囲を調べることによって、造山古墳の墳形や規模をより詳しく知ることができると考えられます。造山古墳の全容解明に向けて、今後の調査計画を立てるうえで、重要な成果と言えるでしょう。



円筒埴輪模式図

造山古墳発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成 29 年 12 月 24 日（日）

場所：岡山市北区新庄下（造山古墳）

はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳群の保存事業に伴い、造山古墳の発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。今回の発掘調査では、造山古墳の葺石や埴輪列の確認を目的として史跡地内の後円部墳丘裾を発掘しました。



図 1 造山古墳群

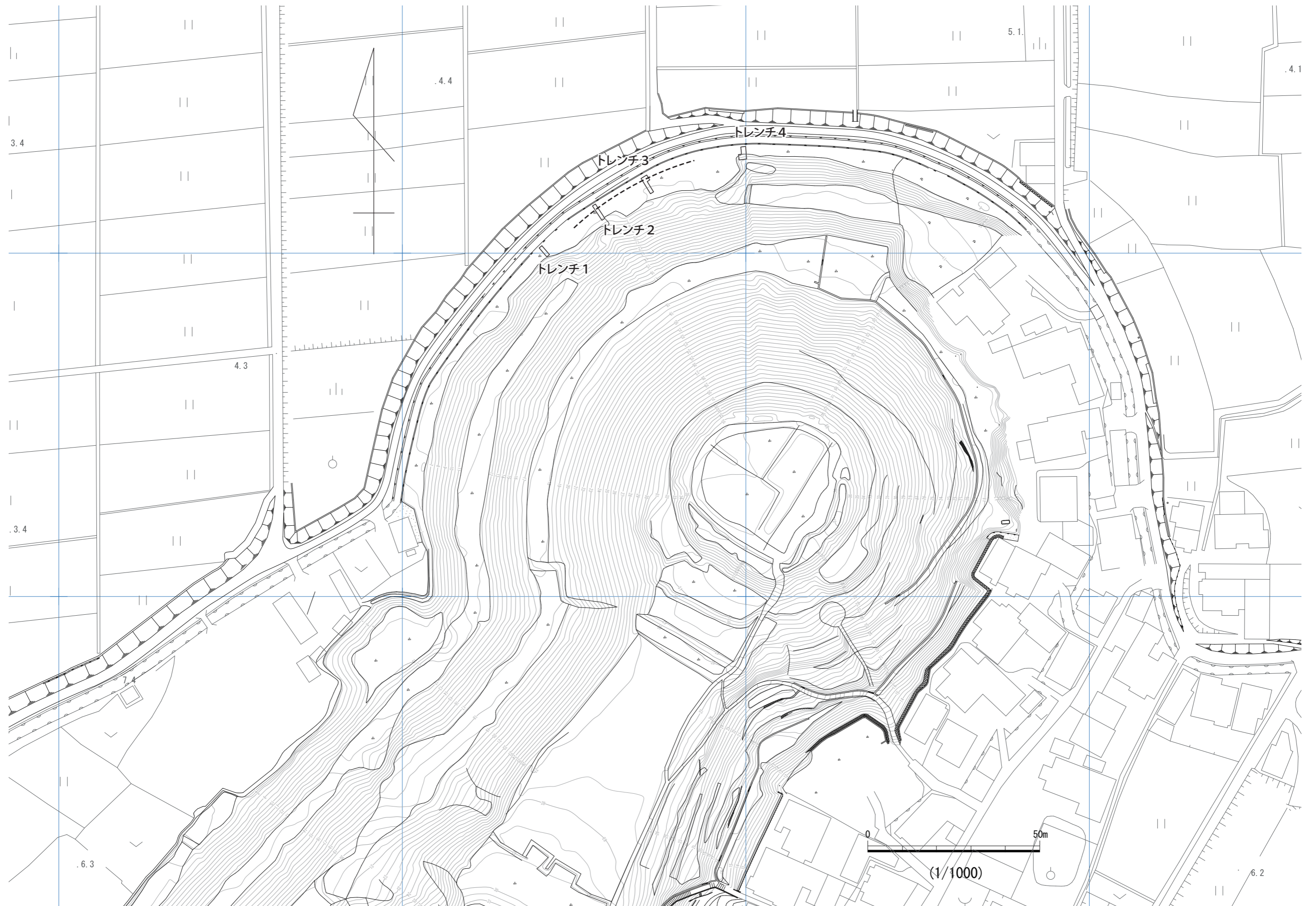


図2 造山古墳調査区全体図 (1/1000)